受　講　案　内　詳　細

グループスーパービジョンD
講師　助川　征雄　先生　（聖学院大学・大学院　客員教授）

【講師略歴】民間精神科病院、神奈川県（精神保健福祉士）勤務。1977、1987年に英国留学。主に精神障害者の地域生活支援推進業務に従事。現在は、田園調布学園大学教授および聖学院大学人間福祉学部教授を経て・同大学院客員教授。杉並区障害者福祉推進連絡協議会会長。聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター認定スーパーバイザー。

開催日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			15日	20日	24日	21日	19日	16日	21日	18日	15日	15日

開催時間	19時00分～21時00分 第3金曜日（8月のみ第4金曜日）開催
会場	家庭クラブ会館　（JR新宿駅南口　徒歩8分）
対象者	経験年数4年以上の方 注：認定社会福祉士のポイントを申請される方は、欠席・遅刻・早退がありますと、証明書は発行出来ない場合があります。

～助川　征雄先生より～

このGSVでは、参加者の自由な発言や体験交流を大切にしたいと思います。特に大切にしたいことは、クライエントと「関わりを大事にしたかどうか」ということです。それらの検討を通じ、クライエントの様々な困難と同時に担当者を取りまく課題などを再認識し、解決のためのあらたな発想（着眼点）などを見つけ、共有すること目指したいと思います。また、医療機関という高度な技術やサービスが期待される職場ならではのご苦労があると思います。多職種とともに働く喜びと同時に、そのような場において、ソーシャルワーカーは何をなすべきかという、「役割をはたすための様々な工夫や苦心」が多々あると思います。それらを忌憚なく自由に吐露できる場にぜひできたら良いなと願います。ソーシャルワーカーは、その働きの中心に「生活支援」を掲げてきました。しかし、少子高齢化や社会格差など、生活環境の複雑化が加速しています。それらの中で、医療保健福祉ニーズがますます多様化し、現場は、さらなる負担を余儀なくされているのではないでしょうか。しかし、これらの医療の高度化や効率化の中、「病者・障害者としての対象化」が進む中にあるからこそ、ソーシャルワーカーは、クライエントの生活支援や夢や希望の実現によりそう、身近な相談援助者としての役割が一層重要になってくるのではないでしょうか。それは、「アナログ的で人間的なかかわり」を大切にし続けるということにほかなりません。言い換えるならば、クライエントの自力や経験知を活かし、自己決定のチャンスを広げる援助視点、シャープアップされた専門相談スキルと魂をもって「その課題解決や緩和に貢献する」ということではないでしょうか。
GSVは自由な発言と自己開示の場でもあります。今回もまた私は、これまでの経験をもとに、率直かつ柔軟にこの場に臨み、様々なご経験に耳を傾け、苦楽を分かち合い、専門職としての未来への夢や希望を語り合いたいと願うものです。
なお、GSVの参加者は9名程度とし、毎回順番に1事例を提出していただき、次回の事例提出者に司会進行をお願いしたいと思います。
時間配分は、事例報告に40分程度、その後、約1時間余自由討議をお願いしたいと思います。事例発表にあたっては、原則として、クライエントの了解を得て、資料表記は匿名でお願いします。また、下記参考文献をご覧になり、GSVへご参加くださるようお勧めします。

参考文献

助川征雄；ふたりぼっち（精神科ソーシャルワーカーからの手紙　～新書）・万葉舎2015
助川征雄；（福祉の現場で役に立つ）スーパービジョンの本：河出書房・2012
柏木昭、佐々木敏明；ソーシャルワーク協働の思想：へるす出版・2010

～昨年度の受講者の声より～

◆自分の職場を離れて職場を客観的にみることができたり、機能やエリア、組織のあり様が異なる他の現場のSWとの出会い、刺激をもらえる場でした。安心して話せる場、であり、グループのメンバーに感謝します。

◆先生は私たちの頑張っている点に目を向けて下さるので、日々の業務でいっぱいいっぱいになっている中ですっきりさせてもらえました。とても受容的な雰囲気で、いつもエンパワメントしてもらいました。